

一斉学習 同時進行型

実践タイトル 写真や動画を拡大表示し 気づきを共有化

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

デジタルテレビ

・実物投影機を通し、静止画や動画を映し、見せたい部分を拡大し、焦点化する。

静止画(写真・観察カード)

・児童が夏休み中に撮影したアサガオの写真や観察カードを拡大表示し、成長の変化について共同思考をうながす。

参考にしてほしいポイント

・児童が気付いたポイントを説明する際に、写真と観察カードを照らし合わせ、画面を示しながら説明することができる。1年生の言語発達段階としては、多様な形容詞を使った話し方が難しいため、静止画の見せたい箇所を自ら指すことで、説明の手助けになる。発表を聞いていた他の児童が、見て気付いたことを発表することで、さらに共同思考が深まっていった。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入	0	・教師が撮影したアサガオの写真を実物投影機で拡大表示し、どんな順番で成長するのかを問題提起する。
	10	・画像が「つぼみ」なのか「実」なのかについて問いが生まれる。 ・写真を黒板に掲示し、名称を考えさせる。
展開	10	・児童が夏休みの観察カードとアサガオの写真を使い、アサガオの成長の変化について説明する。
	35	・アサガオの動画をPC経由でデジタルテレビに映し、変化のポイントはペンタブレットを使い、朱を入れて説明する。
まとめ	35	・グループごとに説明しながら、成長の順番に合わせて黒板に掲示した写真を貼り替える。
	45	・アサガオの成長過程をまとめる。

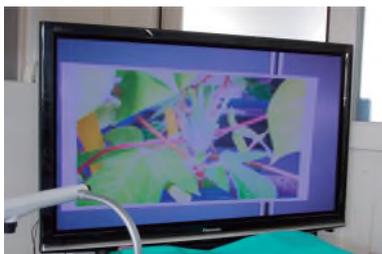


写真1: 児童のアサガオを教師が撮影した写真を拡大

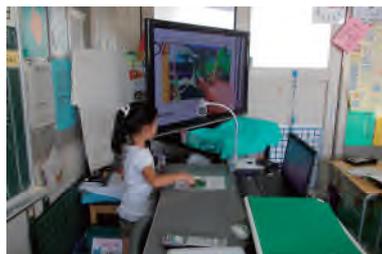


写真2: 写真や観察カードを実物投影機で映して説明



写真3: 成長過程をまとめる

ICT活用への児童生徒の反応等

・カードに描いた絵と写真を照らし合わせることで、自分が夏休み中に見つけたものの正体が何であったのか、花が咲く前の「つぼみ」なのか、種ができる「実」であるのかを理解することができた。
・成長の過程を動画で観たときには、歓声が上がリ、すてきなつぶやきをたくさん発することができた。

活用効果

評価の観点	・身近な環境や自分についての気づき	具体的変容	・必要に応じ、静止画や動画を繰り返し表示し、花が開く様子やしぼんだ後の様子と視点を焦点化することができ、実ができるまでの変化に気付くことができた。
-------	-------------------	-------	---

実践の手応え

・PCとペンタブレット、実物投影機などを常時デジタルテレビに接続し、利用しているため、1年生でも自分が説明したいときに自ら活用することができる。自分が映した写真を使って説明することが上手になってきた。